

**奈良県がん診療連携拠点(支援)病院 市立奈良病院**  
**「PDCAサイクル評価シート」 H29年度用**

**イ 緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、がん診療に携わる全ての診療従事者により、i～ivの緩和ケアが提供される体制を整備すること。**

項目

- i がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来および病棟にて行うこと。また、院内で一貫したスクリーニング手法を活用している。
- ii スクリーニングされたがん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛に対して、アに規定する緩和ケアチームと連携し迅速かつ適切に緩和する体制を整備している。
- iii 医師から診断結果や病状を説明する際に、以下の体制を整備する。
  - a 看護師や医療心理に携わる者等の同席を基本とすること。ただし、患者とその家族等の希望に応じて同席者を調整している。
  - b 説明時には、初期治療内容のみならず長期的視野に立ち治療プロセス全体について十分なインフォームドコンセントに努めている。
  - c また、必要に応じて看護師等によるカウンセリングを活用する等、安心して医療を受けられる体制を整備している。
- iv 医療用麻薬等の鎮痛薬の初回使用や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等による服薬指導を実施し、その際には自記式の服薬記録を整備活用することにより、外来治療中も医療用麻薬などの使用を自己管理できるよう指導している。

年度/計画番号	Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価) (Checkの方法も記載下さい) いつ、誰が、どの様に	Act(処置・改善)		
H29-①	入院・外来を問わずすべてのがん患者にスクリーニングを実施する	入院患者についてはSTAS-Jにて、外来患者についてはSTAS-J活用および「生活のしやすさに関する質問票」を用いて自記式によるスクリーニングを併用することとした。	C1:年月日 H29.4.12	緩和ケア部会にて前年度報告。入院については9割以上が実施されていたが、外来については進んでいない	A1:年月日 H29.5.25	外来のスクリーニングについてがん診療を行う各診療科医師およびクラークヘスクリーニングシートの配布を依頼、実施予定
			C1:評価者 岡島医師		A1:実施者 緩和ケア室 松村CNS	
			C2:年月日 H29.10.11	外来については10月から開始予定。	A2:年月日H29.10.11	10月～開始。
			C2:評価者 岡島医師		A1:実施者 緩和ケア室 松村CNS	
H29-②	iv 医療用麻薬等の鎮痛薬の初回使用や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等による服薬指導を実施し、その際には自記式の服薬記録を整備活用することにより、外来治療中も医療用麻薬などの使用を自己管理できるよう指導する。	薬剤師による指導として指導料3を算定している件数が前年度下半期268件、今年度上半期298件で30件増	C2:年月日 H29.10.11	初回処方の全体数を把握し、どの程度の割合で介入できているか検討を行う。	A1:年月日	
			C2:評価者 岡島医師		A1:実施者	
			C2:年月日		A2:年月日	
			C2:評価者		A2:実施者	
H29-③			C1:年月日		A1:年月日	
			C1:評価者		A1:実施者	
			C2:年月日		A2:年月日	
			C2:評価者		A2:実施者	

**奈良県がん診療連携拠点(支援)病院 市立奈良病院**  
**「PDCAサイクル評価シート」 H29年度用**

項目	<p><b>緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、緩和ケアチームにより、以下の緩和ケアが提供される体制を整備する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ii 週1回以上の頻度で、定期的に病棟ラウンドおよびカンファレンスを行い、苦痛のスクリーニングおよび症状緩和に努める。</li> <li>iii 当該病棟ラウンドおよびカンファレンスには必要に応じ主治医や病棟看護師等の参加を求める。</li> <li>iv がん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛に対して、必要に応じて初回処方を緩和ケアチームで実施するなど、院内の診療従事者と連携し迅速かつ適切に緩和する体制を整備する。</li> <li>v 外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a 外来診療日については、外来診療表等に明示し、患者の外来受診や地域の医療機関の紹介を円滑に行うことができる体制を整備する。</li> </ul> </li> <li>vi 緩和ケアチームに携わる規定する看護師は、苦痛のスクリーニングの支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来看護業務を支援・強化する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a 主治医および看護師等と協働し、必要に応じてがん患者カウンセリングを実施する。</li> </ul> </li> <li>vii 緩和ケアチームで身体的、精神的緩和に携わる専従の医師は、手術療法・化学療法・放射線治療等、がん診療に関するカンファレンスおよび病棟回診に参加し、適切な助言を行うとともに、必要に応じて共同して診療計画を立案する。</li> <li>ix 緩和ケアに係る診療や相談支援の件数および内容、医療用麻薬の処方量、苦痛のスクリーニング結果など、院内の緩和ケアに係る情報を把握・分析し、評価を行う。</li> </ul>
----	--

年度/計画番号	Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価) (Checkの方法も記載下さい) いつ、誰が、どの様に	Act(処置・改善)		
H29-①	v 外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備する。	緩和ケア科が開設され担当医師が4月～常勤として勤務。これまで水曜日のみであったが月曜日も追加し体制を強化	C2:年月日 H29.10.11	今年度上半期での実績は9症例、23件で微増。下半期の評価を4月に行い、改善点を検討予定	A1:年月日	
			C2:評価者 岡島医師		A1:実施者	
			C2:年月日		A2:年月日	
			C2:評価者		A2:実施者	
H29-②	ix 緩和ケアに係る診療や相談支援の件数および内容、医療用麻薬の処方量、苦痛のスクリーニング結果など、院内の緩和ケアに係る情報を把握・分析し、評価を行う。	毎年度「緩和ケア部会」にて上半期、下半期に分けてPCTメンバーの所属部署から報告。(PCT医師、緩和ケア室、放射線科、がん相談センター、リハビリ、栄養室、事務)	C2:年月日 H29.10.11	各部署より関連データ報告。薬剤部においては診療科別に医療用麻薬の処方件数や種類についても報告。	C2:年月日 H29.10.11	
			C2:評価者 岡島医師		C2:評価者 岡島医師	
			C2:年月日		A2:年月日	
			C2:評価者		A2:実施者	

**奈良県がん診療連携拠点(支援)病院 市立奈良病院**  
**「PDCAサイクル評価シート」 H29年度用**

項目	がん相談支援センターの体制整備について
----	---------------------

年度/計画番号	Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価) <small>(Checkの方法も記載下さい) いつ、誰が、どの様に</small>	Act(処置・改善)	
H29-①	がん相談支援センターの周知および新規利用者の増加	がん相談支援センターの周知については、地域住民へは奈良県担当課が県内相談支援センターのパンフレットを作成し公共・商業施設等への配布等を行っている。院内については、がん患者だけでなく入院患者すべてにパンフレットを配布をして周知を行っている。	C2:年月日 H29.10.11	今年度上半期が485件で前年度とほぼ変わらず。今後も院内関係スタッフに周知し、相談のアクセスをよくするための検討を行う	A1:年月日
			C2:評価者 岡島医師		A1:実施者
			C2:年月日		A2:年月日
			C2:評価者		A2:実施者
H29-②	がん患者および家族が不安なくがん治療を受け、療養や社会生活をおくることができるよう「がん対策情報センター」による「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)を修了する相談員を増加させ、相談支援の質の向上に努める	今年度2名のMSWが受講修了	C2:年月日 H29.10.11	受講修了者が院内に計4名になったが全てMSWであり、医学的な相談内容に応じるよう看護師の受講修了者を養成し、同センターの配置を進める	A1:年月日
			C2:評価者 岡島医師		A1:実施者
			C2:年月日		A2:年月日
			C2:評価者		A2:実施者
H29-③	相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備する。	県内のがん相談支援センターにおいて平成30年1月～2か月間がん相談支援センター利用者調査を実施した。※現在集計中	C1:年月日		A1:年月日
			C1:評価者		A1:実施者
			C2:年月日		A2:年月日
			C2:評価者		A2:実施者